

位置図



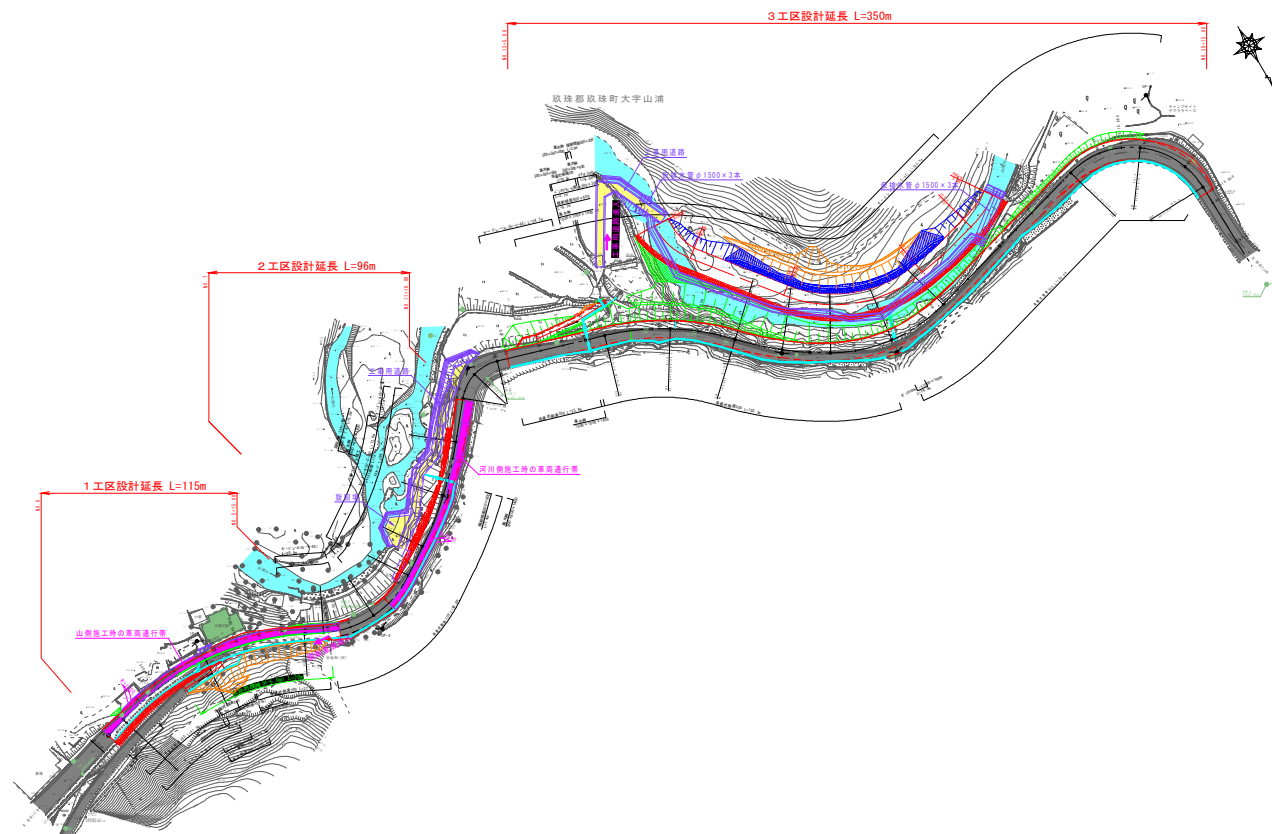
現地条件(施工上の制約、設計のコントロールポイント等)

- ☐ 1～3工区 現道幅員 6.0m 以上の箇所を起終点に設定
- ☐ 1工区住宅⇒影響の無いように線形を設計
- ☐ 1工区町道⇒付け替え施工を行うことにより対応
- ☐ 1工区右側切土区間時の現道交通安全確保⇒仮設防護柵を施工することにより対応
- ☐ 2工区落石防護柵⇒影響の無いように線形を設計
- ☐ 3工区張出部施工⇒河川流路を変更することにより対応

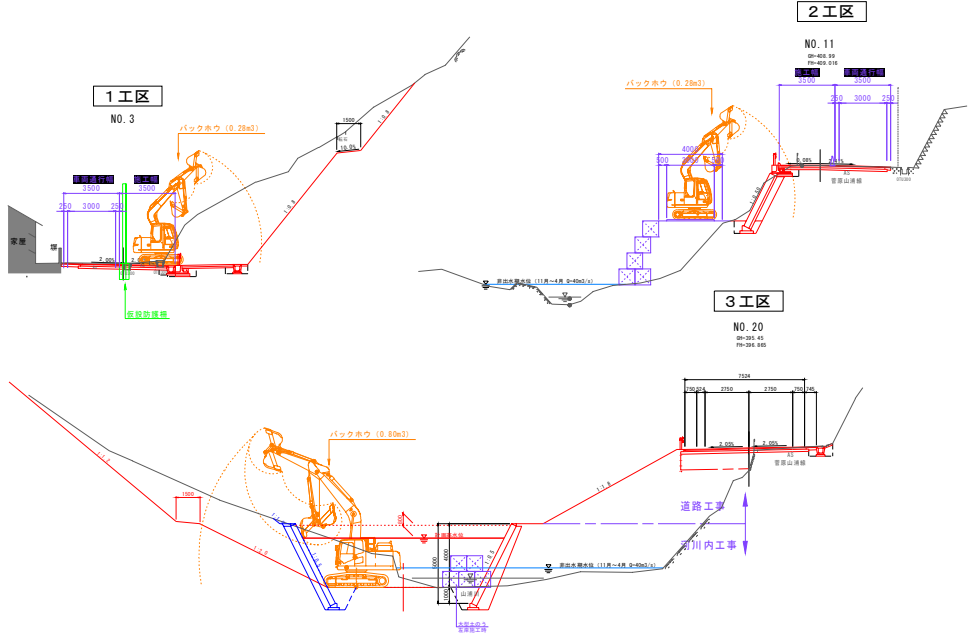
設計条件

- ☐ 道路区分:第3種第 5 級 ☐ 設計速度:V=20km/h
- ☐ 計画幅員:W=5.00m(車道 4.00m, 路肩 0.50m)歩道なし
- ☐ 仮設道路最小曲線半径 R=15m ☐ 最急縦断勾配 i=12.0%
- ☐ 仮締切:大型土のう(予定)

平面図



標準断面図



施工者からの意見および対応方針

○改善事項

【1工区】

- 土留を兼用できる仮設防護柵を計画のこと。
施工上、上部から逆巻にて施工していくので、下部で堆積する形となる。
土留と仮設防護柵を兼用した場合、山側へ設置位置をシフトできるので、通行帯の有効幅員が広くなり、車両の通行が容易になる。
→ 堆積高を H=2.5、上載荷重を 0.45m3BH 相当として検討する。

- ブロック積施工時の掘削勾配について、上側に市道があるため安定勾配で掘削できるか確認のこと。
→ 確認を行う。

【3工区】

- 仮締切は大型土のう積による仮締切ではなく、工事用道路を兼用させた構造にすること。
→ 工事用道路兼用として検討する。

- 仮排水管のφ1500 は運搬効率が非常に悪く、単価も高いため経済性が非常に悪い。
仮排水管の使用は最小限になるよう設計のこと
→ 最小限になるよう検討する。

○確認事項

- 計画の横断管路の設置にあたっては、大型土のう等で迂回路を仮設すれば車両を通行させながらの施工が可能。
→ 大型土のうによる迂回路の仮設を検討する。

- 各工区における施工手順については異論なし。
→ 3工区→2工区→1工区の発注予定手順については異論なし。